

トナミHD

第一貨物

久留米運送

# 幹線共同運行スタート

## 「品質・効率化・3PL支援」が鍵

三日、トナミホールディングス（本社・富山県高岡市、綿貫勝介社長）、第一貨物（同・山形市、武藤幸規社長）、久留米運送（同・福岡県久留米市、二又茂明社長）の特積み三社による幹線共同運行がスタートした。三社が目指すのは幹線効率化だけではない。新たな輸送の「仕組み」を構築しネットワークを拡充することで、品質、リードタイムといった顧客対応力をさらに高めていく考えだ。

（矢田 健一郎）



京浜ターミナルを出発する幹線共同運行の第一便

三月月曜日夕方、特積み三社の共同出資会社「ジャパン・トランス・ライン」（JTL）、本社・東京、坂田昭雄社長）の白い大型トラックが東幹部が列席した出発式。京・大田区平和島の京浜あいきつ壇に立ったJTL

三日月曜日夕方、特積み三社の共同出資会社「ジャパン・トランス・ライン」（JTL）、本社・東京、坂田昭雄社長）の白い大型トラックが東幹部が列席した出発式。京・大田区平和島の京浜あいきつ壇に立ったJTL

〇〇〇

出資する三社の社長、幹部が列席した出発式。

Lの坂田社長は「当社は〇%ずつ、久留米運送が（トナミHD）、第一貨物、二〇%を出資。一般貨物久留米運送の三事業会社の「大きな夢」を持って誕生した。今後いろいろなことにチャレンジする。今日がその第一歩」と、JTLが秘めた大きな可能性に触れた。

月々金曜日で  
毎日6便運行

JTLはことし四月設立。資本金六千万円。トナミHDと第一貨物が四



これまでの課題は、上り便に比べ物量の少ない下り便をどう効率化するか。一社が、京浜、足立のトラックターミナルな共同出資会社JTLのロゴ。カラーは左からJ（赤）、T（緑）、L（青）



出発式での集合写真（前列右から綿貫トナミHD社長、坂田JTL社長、武藤第一貨物社長、二又久留米運送社長。後列はJTLの六人のドライバー）

二社の荷物を積み合わせる「二社積み」を行う。これだとトラックを満載にでき、同一ターミナル内ならすくなく荷物を集められる。

〇〇〇

JTLは三社の荷物情報、三社統一の情報システムで集約。情報を基にトラックに空きスペースができないよう、各社の荷物を組み合わせる。共同化実現のために三社間で決めたルールは、JTLのトラックをホールドせず、さっと積み込み、さっと降ろすことだ。

一方、物量の多い上り便では、一社による二店積みで満載になるので、JTLのトラックは一社

の専用便として走る。

土曜日の便は共同化しない。土曜は平日に比べ極端に物量が少ないが、各社で最適便との調整を行う必要もあり、現時点で共同化のメリットは大きくないと判断した。

## 全国網の強化視野に

### 新たな「仕組み」構築で

JTLは、いまや全国のトナミHD、九州の久留米。JTLは、各社が

強みとするエリアから全国に向かう荷物をより速くより良い品質で輸送

を、三社が強化すること支援していく。全国に販路を持つ顧客の「品質」や「リードタイム」

の輸送ニーズに応えることを目指す。

セイノール、福通と競う武器に

また構想段階だがJTLの新たな「仕組み」を

前の全国ネットワークを持つセイノールホールディングス（本社・岐阜県大垣市、田口義隆社長）や

福山通運（同・広島県福山市、小丸成洋社長）と競うための一つの武器といえる。